

社会主義は理想なのか
～「共産党宣言」に学ぶ

第3回 関東ブロック

第一章 ブルジョアとプロレタリア 第2回

ブルジョア階級の革命的役割とは

ブルジョア階級は歴史において、
きわめて革命的な役割を演じた

司会Ⅱ今回は、第一章の2回目の学習
になります。先月号に引き続き「第
一章 ブルジョアとプロレタリア」の
続きを討論したいと思います。今回は
『ブルジョア階級は歴史において、き
わめて革命的な役割を演じた』と『宣
言』に書いてありますが、この革命的
な役割とは何かを解き明かすことです。
KUⅡ『ブルジョア階級が政治支配を
握るにいたったところでは、封建的な
家父長的な、牧歌的ないっさいの関係

を破壊した」とあるが、破壊して何に
変えたのか。そこが一番革命的な役割
ということでしょう。それは、「それ
までの人間的な牧歌的な関係を、つめ
たい『現金勘定』以外のどんなきずな
をも残さなかった」と言っている。具
体的にどういうことかと言うと、封建
制時代の第一身分は僧侶、第二身分は
貴族、第三身分は平民という身分制社
会だった。その中では、宗教による
「信心深さ」、貴族の闘う「騎士の感
激」、平民だった一般市民の「町人の
哀愁」という素朴な感情があり、良い
につけ悪いにつけ、封建制中世社会で

は、階級社会ではあつたけれども、牧
歌的な人間社会の関係が1000年近
く支配していました。それを資本制社
会が破壊しました。何によつて破壊し
たのか。この世で生きていくのは、す
べて金次第だ、金を持っていれば何で
もできるということになったというこ
とだと思ふ。人間関係がすべて金で縛
られる世の中になったということです。
司会Ⅱそれが革命的と言うことですか。

人間の値打ちを交換価値に変えた

TKⅡ私もそう受け止めます。彼らブ



封建社会の身分制ピラミッド構造

ブルジョアにとっては、いままで尊敬されていた、「医者、僧侶、詩人、学者を自分たちのお雇いの賃金労働者に変えてしまった」、とあるように、ブルジョア社会は、ブルジョアと搾取の対象である賃金労働者の二大階級へと階級分化に突き進んでいくことなるわけです。これが、きわめて革命的役割だと私は思う。

MII交換価値に変えたというのがいまいち分かりません。医者で例えていえば、医者の使用価値は病気を治すことだ。これは尊敬に値する価値ともいえる。しかし、交換価値に変えたということは、どういうことかだ。医者は技術を身に着けるのに相当の勉強もする。金をかけて医者になる。普通の賃金労働者とは違う。それ相応の報酬はもらって当然なのに、賃金労働者に変えてしまったとあるが、そうじゃないんじゃないか。僧侶、詩人、学者だって、賃金労働者とは違うと思う。交換価値には変えられない値打ちを持っているんじゃないか。

KAII金にならないものは、ブルジョアにとって意味がなく、すべてを金になるものに変えてしまうんだ。詩人が素晴らしい詩を書けば、封建時代は称賛を受けた。音楽家だって宮廷音楽で認められれば立派に讃えられた。しかし、ブルジョアは、金勘定にならなけ

ルジョアは、「人間の値打ちを交換価値に変えてしまいい、・・・無数の自由を、ただ一つの、良心を持たない商業の自由と取りかえてしまった」のだ。封建制では、封建領主は農奴を搾取するのに、宗教を利用し、王侯貴族を崇めさせ、政治的幻影でまとって搾取の本質を隠していた。しかし、ブルジョ

アにそれが邪魔でした。生産力を高め搾取を強化するには支配階級だった僧侶や王侯貴族も、身分制も邪魔でした。ブルジョアにの要求は、直接、賃金労働者を搾取できる階級へのし上がることでした。そして、あからさまな、恥しらずな搾取を公然とするに至るので、ここで、初めて、「交換価値」と

れば、相手にしない。金になると思えば買い取って商売にする。マルクスは『哲学の貧困』で「今まで伝授されたが、交換されるためしのない、与えられはしたが売られたためしのない取得されはしたが買われたためしのない、愛、徳、意見、学問、良心、等々くまでがすべて金で買われる時代」と言っている。全ての精神的、物質的なものを問わず市場で売りさばく時代がやってきたということでしょう。市場で交換して価値が決まるということじゃないかなあ。

KUllブルジョア社会は、資本家以外のすべての人間を搾取の対象にするんだから、詩人、音楽家、医者、学者であるが、賃金労働者なみにこき使う作用が働くということでしょう。資本家のいうことを聞かなければ、医者や学者として通用しないような仕組みに社会を造り変えた、ということだと思ふ。いろいろな人間、封建制の支配

階級や階層、それに追随する人たちを賃金労働者階級の一員にしてしまう。

これが人間の値打ちを交換価値に変えたということだと思うが、次回は経済学的な用語としての「交換価値」という概念の説明、補足が必要ですね。

今までと違った驚異を成し遂げた

司会II 答えがでたようです。それでは次の革命的な役割で重要な点について、Mllブルジョアが革命的だったのは、

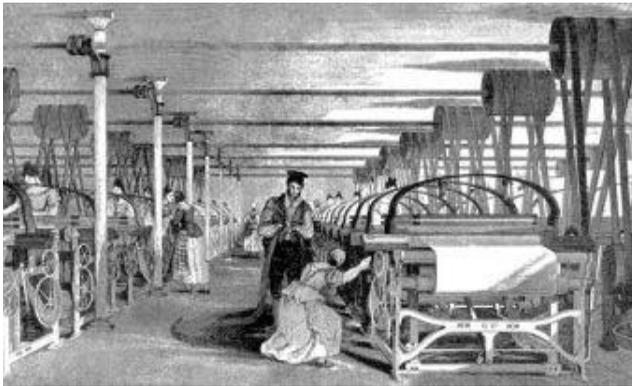
「人間がその活動によって何を成し遂げうるかをはじめて証明したのは、これらであった。かれらは、エジプトのピラミッドやローマの水道やゴチック式大寺院とは、全く違った驚異を成し遂げた。かれらは民族移動や十字軍とはまったく違う遠征を実行した」ことにある、とテキストは述べています。

問題はなぜできたのかです。それは、生産用具の絶えまない改良に継ぐ改良

であり、生産力をどんどん飛躍的に高めていった。その結果、古い生産関係では、発展が阻害される。だから生産関係の変化に合わせて全社会を革命しなければならぬ。生産の絶え間ない変革が、以前のあらゆる社会と違うブルジョア時代の特色だ。中世封建時代の固定した変化のない生産関係は、古

臭くなった上部構造の観念や考えとともに吹っ飛び無くしてしまっただ。そして自分で作った生産物の販路を拡大していこうという欲望が、ブルジョアをして地球上を駆けめぐり、どんなところにも巢をつくり、どんなところも開拓し、どんなところとも資本主義の生産関係と結び付ける。そして世界市場の搾取を通じて、世界の国々の生産と消費を国際的なものに資本主義は作り上げた。こういわれているが、まさに今が、世界市場の搾取が行われている時代ですね。新自由主義の多国籍資本の最適地生産と消費は、この論理

◆みんなの学習講座



19世紀、イギリスの工場

を証明していると言える。ところでこの時代世界市場は存在していたのかな。YII『宣言』が書かれた1848年の時代は、自由主義段階の資本主義でしたが、この時代は、パックスブリタニカ（イギリスによる世界平和）の時代で

イギリスが「世界の工場」といわれた時期です。世界中にイギリスで作られた生産物の販路を求めていた時代だったんだ。この時代に、世界市場の搾取構造を作り上げたのがブルジョアの革命的な役割だったんですね。現代帝国主義は新自由主義の局面で、この自由主義社会へ戻そうと、政治介入でこれまでの規制を取っ払おうとして、色んなところで矛盾が噴出しているんです。

ブルジョアの狙いは、

世界を資本主義へと変えること

司会II「かれらは全ての民族に、いわゆる文明を自国に輸入することを、すなわちブルジョア階級になることを強制する。一言でいえば、ブルジョア階級は、彼ら自身の姿にかたどって世界を創造するのである・・・未開人のどんなに頑固な異国人嫌いも降伏を余儀なくされる」とも書いてある。全世界

を資本主義国にする。だから、今日のグローバル経済という状況をすでにマルクスは予告してたのかなあ。

YII「ブルジョア階級は生産手段、所有、および人口の分散を段々に廃止する。彼らは人口を凝集させ、生産手段を集中させ財産を少数者の手に集積させた・・・中略・・・一つの税関線を持つ」と書いてある。一国の政治革命を成し遂げた後、何をしたかといえは大規模な生産諸力を作り上げたといっている。つまり、あたかも一つの国であるかのようにするんだ。封建領主によって領土が分かれていた。それを一つの国にするわけだ。日本でいえば、徳川幕府と言ったって封建領主の寄り集まりなんだから、連合なんだから、それを一つの国にするにはブルジョア国家にしなけりゃいけない。それで幕末日本では、下級武士団が、「中国のように、国民が阿片で侵され欧米列強に分割されちゃうぞ、大変なことにな

る」と危機感をもって、徳川幕藩体制を倒し、日本という一つの国に統一しちやうわけだ。その政治革命の後、明治維新政府を担った人びとが、富国強兵、殖産興業を方針に産業革命を興し、ブルジョア社会に変革していったんだ。

恐慌発生の原因は

司会Ⅱブルジョア自身が自分の生産力を高めて富をどんどん作ってブルジョア社会というものを作った。しかし、逆に生産力の発展により、ブルジョア社会に対して疎外されるという状況が出てきました。具体的に言うとお剰生産産だと思うのですが、それが、恐慌だというわけですね。そこで、何故恐慌が起きるのかを、本文では、「社会に文明があり過ぎ、生活手段が多すぎて云々・・・」と書いてありますがどういうことでしょうか。

MⅡブルジョアは、恐慌を起こせようと

して起こしているわけじゃないでしょう？

KUⅡそれまで手工業でこつこつやっていたのが、蒸気機関が発明され、その動力により生産力が飛躍的に伸びたのが大きいと思う。この変革は、手作り、たいして作れなかった物が蒸気動力によって、物が大量に作れると、それが文明の発達したことだと思っけど、このことが、使い切れないほどのものが社会にあふれさせ、つまり物が売れない（生活手段が多すぎて）。それが恐慌発生の原因になったんだね。YKⅡまさにそうだ。恐慌は必然的に発生したんだよ。最初の恐慌がイギリスでは1825年に起きている。それ以降も、10年周期で起きているとマルクスは言っている。『宣言』が書かれた前年の1847年にはイギリスからフランス、ドイツに商業恐慌が波及した。産業革命で飛躍的に生産が伸びて過剰生産になり商業恐慌が起きた。

TKⅡ商品が多すぎて食い物、着物、一杯余っているわけよ。労働者が消化出来ない。工業、商業、発展しすぎて商品が余ってしまった。自分たちが作った生産諸力にだよ、自分たちが縛られちやうているわけだよ。余っているから物をどうするかとなると、恐慌によって破壊するほかないだろうと言っている。いったん生産をストップして、資本主義的再生産がとまる。その間、弱い資本家は倒産し、強い資本家に吸収される。そこからまた再生産が始まる。恐慌を繰り返すたびに、資本主義は発展してきた。

YⅡマルクスは「ブルジョア階級は、恐慌を何によって克服するか？ 一方では、一定量の生産諸力をむりに破壊することによって、他方では、あたらしい市場の獲得と古い市場のさらに徹底した搾取によって。つまり、どういうことか？ つまり彼らは、もつと全面的な、もつと強大な恐慌を準備する



のであり、そしてまた恐慌を予防する手段をいっそう少なくするのである」と。そしてこの法則は現代帝国主義時代でも貫徹している。しかし資本主義は自動崩壊しない。

自らに死をもたらす武器とは

司会Ⅱ 「ブルジョア階級が封建制を打倒するのに用いたという武器は、今や

パリコミュン

ブルジョア階級自身に向けられる」と。この武器とはなんでしょうか。

MⅡ労働者階級のことだよ。

TKⅡ違うと思う、階級としての労働

者は、資本主義生産が産み出した階級のことであり、ここで言う武器ではあ

りません。つまり、その武器を使う人

のことを言っているからです。テキス

トが言う武器とは、生産諸力のことだ

ね。この生産諸力でみんなの生活を、

豊かに出来る条件が出来てくるという

ことだろう。新たな生産手段を作り出

し、それに応じた生産諸力、これを武器

というんだ。この生産諸力これが、

いまやブルジョア階級に向けられるん

だ。その武器を使うのが労働者なんだ。

労働者がストライキをやったら生産が

ストップするでしょう。生産諸力を実

際動かしているのは労働者階級なんだ

から、それが今度はブルジョアに向か

つてくると。この当時はイギリスなん

か、頻繁に、日常的にストライキをや

っていたんだ。それをマルクスやエン

ゲルスは自分の眼で見ている。フラン

ス、ドイツでも労働者はストライキや

大衆行動を激化させていた。

MⅡ武器とは社会主義思想とか思想の

こと言っているんじゃないの。

TKⅡ思想じゃない。ブルジョアが作

り出した生産諸力のことをいっている

んだよ。その生産諸力が武器になるん

だと思うよ。ブルジョアでは使いこな

せない力だから「武器」といっている

んだ。使いこなせるのは労働者階級だ。

司会Ⅱ自分の作ったもので、生産力を

高めたが、結果的に自分の首を絞める

ことにつながる。だから自らに死をも

たらす武器だと言っている。この矛盾

は唯物史観に基づいた考えでないと思

明できないと言えます。

時間が来ました。今回はここまでと

します。次回はいわゆる武器を使う

人々、プロレタリアートとは何かを討

論したいと思います。